

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592000089		
法人名	株式会社 耕智		
事業所名	グループホームこころみ		
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北16975-3		
自己評価作成日	平成27年10月15日	評価結果市町村受理日	平成27年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kami=true&id=4592000089-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1 利用者お一人おひとりを自分の家族と思い、その人らしさを大切にし、安心して穏やかな生活が送れるよう笑顔と思いを大切にしています。
- 2 地域とのつながりを大切にしながら、利用者様の暮らしやすい環境作りに努めています。
- 3 利用者様が住み慣れた地域で最期を迎えられるお手伝いができるよう、ケアの質の向上を目指し、スタッフ一丸となって取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・職員は、ホームの理念である家族の一員として穏やかに過ごしてもらえよう、利用者主体に日々の生活を支援し、また、周辺の散歩や理容室への外出支援、行事への参加等を通して地域との交流を積極的に行っている。
- ・太陽光発電による利用者の電気料金の負担減額や排せつ誘導を多くして、オムツの小型化と交換数を減らし、自己負担額を介護支援で補おうとする家族への気配りがみられる。
- ・隣接する小規模多機能事業所のデイサービス参加者と共に食事やレクリエーションに参加して、交流する楽しみの一つとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に提示しており、ケース会議や事あるごとに話し合ったり、ケアプランにも盛り込んで共有に取り込んでいる。	職員は、利用者を自分の家族の一員として、地域の中で穏やかに過ごすことができるように理念を捉え、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入しており、行事や地域の会議へ出席している。	地域の保育園児や理容所とは、相互に行き来している。地区の長寿会から依頼され、認知症に関するリーフレットを準備したり、自治会の会合に参加し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の構成員の方の要望により、認知症の症状について資料を手渡し、長寿会での活用を促した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、行事報告や利用者状況について報告を行い、意見支援をしている。当グループホームで可能なサービスについても理解して頂いている。	開設当時から、利用者や家族、職員からも舗装路の要望があったが、推進会議からも避難上でも必要との意見が出され、公道から玄関までの舗装路を設置し、車椅子利用や歩行時の転倒防止に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携を密にして、相談事等も気軽にできるような関係づくりに取り組んでいけるような努力をしている。	担当課及び町地域包括支援センターの職員が推進会議に参加しており、併設の小規模多機能事業所も併せて、必要時には相談、検討、指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は午前7時～午後6時までは開錠しており、自由に外に出られるようにしている。離設に対しては十分な見守りに注意している。	管理者は職員会議でも取り上げ、職員同士も言葉かけや介護方法に注意を払い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は7時から18時まで開錠している。帰宅願望や物盗られ妄想等、利用者の行動パターンを把握した個別対応を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は研修会に参加しており、虐待が見過ごされないよう、傷や皮下出血等に関しては徹底した追求を行っている。ヒヤリハットにて検証をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修会に参加したことはあるが、現在、制度の利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がおこなっており、理解に乏しい場合は再度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が気軽に話しかけられるような雰囲気づくりに取り組んでいる。要望に関しては、改善できることはすぐに行っている。	「車の乗降時に濡れないよう玄関に屋根を作る」「家族会を発足したい」「ホーム周囲の除草に家族も協力したい」等の家族からの希望や意見があり、家族が参加するクリスマス会には回答できるよう検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題点が発生した時点で緊急に会議を開き、討議を行い、常時、早急な対応ができるよう心掛けている。	職員からの意見で、ヒヤリハットの記録と再発防止を検討し、ベッドからの転落防止のため畳に変えたり、尿取りパッドサイズを個別化して自己負担を軽減させている。職員のキャリアアップのため、資格試験6か月前から、教育係が受験対策指導を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設して3年が経ってはいるが、併設の小規模多機能の伸び悩みに頭を痛めながらも、職員一人ひとりに対して可能な限りの事をし、また、それに見合った努力もしてほしいと思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修やグループ法人と共有できる研修の場をもち、学校等に通う職員は優先的に休みを学校予定に合わせ、また、学費等の相談にも応じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会がある度に勉強会や交流の場を設け、グループ法人間で職員だけでなく利用者も共に交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談の際に本人の話しやすい雰囲気を作り、要望や訴えを聞き、良い関係性を構築できるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に家族からの訴えも真摯に受け止め、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療機関等の連携等を常に念頭に置き、家族との面談の中で必要な支援を明確にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一対一の人間関係を重視し、個別ケアを意識しながら、入居者との関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来設の促しや時には家族との外出を積極的に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の来設時の面談のセッティングや定期的な墓参り等を計画・作成している。	本人や家族以外に、地域の方達から得た情報を利用者の関係継続に生かし支援している。同系列のグループホームとの交流会や併設の小規模多機能事業所での食事やレクリエーションに共に参加して、入居後のなじみの人となる関係づくりも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	対人交流の支援、対人トラブルへの介入等を行いながら、和を保つ事ができるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族も地元の住民であり、自治会での再会やイベントへの協力要請、運営推進会議への参加がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者の生活歴や趣味を把握することで、その人らしさを維持できるようなケアを進めている。	家族や本人の情報把握以外に、本人の一言やサイン、知人からの情報を申し送り帳に記録して、職員は共有するよう努めている。初期のアセスメントで把握できなかった飲食の嗜好や趣味を取り入れて、その人らしい暮らしの支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの段階で、医療機関や居宅支援事業所からの情報を基に把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	超高齢者が半数を占め、心身状態の変化には強く注意を払っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、各担当者がケアチェック表を提出し、実施状況の評価を行っており、それを基にモニタリングを実施している。	担当者会議で、担当者や家族の意見・要望が出されているが、介護計画は介護記録や評価から作成されている。	介護計画作成の最初から、チーム全員の意見や家族の要望も取り入れて計画を作成し、担当者会議では、一堂に会して、それぞれの意見や新たな意見を計画に反映することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記載についてはスタッフ間で内容の差があり、情報や気づきの部分が欠けていることがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の家族の状況も把握しながら、緊急時等に家族の対応が困難な際は受診の介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の理・美容やコンビニ、スーパーを利用し、利用者のことを理解して頂けるようコミュニケーションを図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームでの生活状況の報告をノートや手紙で行い、状況変化時は診察に同行し、医師への報告や指示を伺っている。	ホームには入院可能な3協力医療機関、認知症専門病院があり、必要に応じて訪問看護も行われている。受診には、原則、家族が同行するので、受診ノートを作成し、緊密な連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	初期に気づくようケアスタッフとの報・連・相に努め、最小限にとどめられるよう努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに訪問を行い、病院、医師や看護師とのコミュニケーションを図り、利用者家族が安心してグループホームに帰って来られるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や急受が予測される方に関しては、主治医から家族に対して予測されるリスクについて説明をして頂き、スタッフ全員で共有している。	看護職が3名いるので、終末期において、経口摂取が可能な間はホームで過ごせると共通理解を持っている。看取りについては、急変時の受け入れが可能な協力医療機関がある。主治医や職員の間でも全てホームで実施する結論には達していないが、看取りの構築に向けた話し合いは継続している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法は定期的に実習を行っている。急変時、看護師にすぐに連絡できるよう、体制づくりに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練は予定している。課題もたくさん残されている。	地域の参加による火災訓練を実施して、地域に具体的に協力してもらった内容や火災以外の災害への訓練不足、事業所を避難場所として提供することなどの課題が具体化してきており、関係機関と相談していくことを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりその人に合った声かけを行い、その中で聞くこと利用者様に寄り添い言葉をかける。	職員は、居室への出入り時の声掛けや食事時のテーブルの座席配置に気を配り、入浴には同性介護をするなど、人格や誇りを傷つけないよう、言葉かけにも留意して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望に寄り添い、見守りを行い、自分らしさに耳を傾けて対処する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活でベッドで静養する人、ソファで傾眠する人、車椅子で新聞、雑誌を読んで過ごされる人、本人の希望に寄り添い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるよう散髪や髭などを剃ったりして、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食事に配慮し、季節に合った献立や行事食が提供され、楽しんで頂いている。職員も同じテーブルと一緒に食事をし、コミュニケーションを図る。できる方には片付けの手伝いをして頂いている。	利用者の食べたいものを聞き取り、調理師を中心に1週間ごとの献立を基に調理している。昼食は隣接のグループホームの利用者と共に、食事形態ごとにテーブルを囲み、職員も入り、見守りや声掛けをしながら、完食へつながるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表や水分チェック表を用いて、情報共有し、個々の不足に対し、補食や清涼飲料水などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じて、うがい、歯磨き、義歯の洗浄の介助を行っている。義歯は週一回入れ歯洗浄剤を使用し、口腔内の清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ、リハパンの方は定時の確認や声かけ誘導を行っている。布パンの方の失禁時の声かけも、プライドを傷つけないよう行っている。	排せつチェック表に基づき、利用者にトイレの利用を促しているが、小さな尿取りパッド利用者には、誘導する時間を早めにして、失敗しないようケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の方の指示に従い、一人ひとり無排便の日数を日々確認し、下剤の調整を行っている。水分量の調整や献立の工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体力に合わせて、月曜日～土曜日の間で計画的に日を決めている。拒否があるが、言葉掛けを工夫して入っていただいている。	毎日でも入浴可能であるが、入浴したくない利用者には、誘導を工夫し、無理強いせず、保清のため清拭にかえるなどの支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のその日その時の状況により、洋室から和室に移動したり、不安がある方は添い寝をしたりして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食後、服用するときは必ず、日付、氏名を本人の目の前で確認し、飲み込みまで確認している。 用法、用量は必ず理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の介護度に合わせて、個別レク、集団レクで分けて行ったらいいと思う時もあります。目的に応じて一人ひとり笑顔を引き出せるよう努力しております。どうしたら喜んでもらえるか思案するのも、スタッフの楽しみでもあり、やりがいでもあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調、安全を考慮した上で戸外に出掛け、季節感を味わいの遠出でもあります。また、地域の人々にもっと当施設を知って頂くためにも、地域周辺を散歩し、コミュニケーションを図っています。	毎月、地域の行事や季節の花木鑑賞など、多様な外出の機会を設けるとともに、散髪やドライブ、近辺の散歩などの個別的な外出も含めて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様がお金を所持される場合、職員と一緒に買い物へ行ったり、希望があれば代わりに購入するなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があれば自宅へ電話を掛けたり等、その都度対応している。時には県外にいる弟さんに電話をされる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーに温・湿度計を設置し、室温などの調整を行っている。玄関や食堂居室には、その季節の花や行事の写真、利用者様の作品を掲示している。音楽を楽しんでいる方もいる。	ホーム内は、壁、床材などが総檜で温もりが感じられる。職員や保育園児による季節を感じる飾りつけがなされ、高齢者にはなじみの曆を配置するなど工夫している。玄関の段差もバリアフリーに改良されているが、外側の屋根が短く、降雨日には、車椅子の利用者や俊敏な動きが困難な利用者及び職員も濡れながら介護している状況である。	車椅子の乗降介助は、介護者一人で可能であるが、降雨時には二人で傘を使用しても不十分である。更に、濡れた面は滑りやすく、転倒予防のためにも、長尺屋根の取り付けを検討することを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	重度化に伴い、ソファーに座っていてもあまり会話がなと思う。休んでいるか、テレビを見ているかである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンス等を持ち込んでもらい、安心して過ごせるよう配慮している。居室に色々貼ってあり、賑やかである。	各居室はベッド以外は持ち込んでもらい、居室を整えている。物品の種類や配置について、本人が居心地良く使いやすいよう、一緒に相談し支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺を使い、隣棟まで車椅子で移動したりできるように工夫していると思う。		